

横浜市立 港南台第二小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・学ぶ楽しさ(感動)を味わわせ、子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる教材開発及び教材提示の工夫、指導法や学習形態の改善を進める。「伝え合う力を育てる」をテーマに組織的に研究の充実を図る。・子ども一人ひとりに基礎的・基本的な学力を確実に定着させるために、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	・国語を中心に授業力の向上に努めた。「伝え合う力を育てる」をテーマに組織的に研究の充実を図った。・今後は、どの子に対しても学習意欲を高められるよう研究していく。各教科における「育成すべき資質・能力」について確認し、教育課程編成に生かしていきたい。	A	確かな学力	・学ぶ楽しさ(感動)を味わわせ、子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる教材開発及び教材提示の工夫、指導法や学習形態の改善を進める。「伝え合う力を育てる」をテーマに組織的に研究の充実を図る。・子ども一人ひとりに基礎的・基本的な学力を確実に定着させるために、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	・総合と国語を中心に授業力の向上に努めた。「伝え合う力を育てる」と地域学習をテーマに研究の充実を図った。・今後は、どの子に対しても学習意欲を高められるよう研究していく。各教科における「育成すべき資質・能力」について確認し、教育課程編成に生かしていきたい。	A	確かな学力	・学ぶ楽しさ(感動)を味わわせ、子どものよさや可能性、創造性の伸長を図るために、子どもの興味・関心を喚起させる。「総合的な学習の時間・生活科」を重点的に研究し、地域の教材を生かした問題解決学習を充実させていく。授業力の向上に努め、引き続き「伝え合う力」を高めていく。		
豊かな心	・縦割り活動(ふれあい活動)の意図的計画的な展開により自己有用感の育成を図る。・人権教育を進め互いの違いを認め合う心の育成を図る。・道徳教育を学校の全教育活動を通して計画的・発展的に行う。子どもがねらいとする道徳的価値を自分との関わりの中で考えさせることにより、主体的に道徳の学習に取り組ませる。	・6年生は、リーダーとしての自覚をもってたてわり活動に臨み、自己有用感の実感できた。・人権教育を進め互いの違いを認め合う心の育成を図ることができた。	A	豊かな心	・縦割り活動(ふれあい活動)の意図的計画的な展開により自己有用感の育成を図る。・人権教育を進め互いの違いを認め合う心の育成を図る。・道徳教育を学校の全教育活動を通して計画的・発展的に行う。子どもがねらいとする道徳的価値を自分との関わりの中で考えさせることにより、主体的に道徳の学習に取り組ませる。	・6年生は、リーダーとしての自覚をもってたてわり活動に臨み、自己有用感を実感させることができた。・「港南台ひの特別支援学校」との交流などを通して人権教育を進め互いの違いを認め合う心の育成を図ることができた。	A	豊かな心	・縦割り活動(ふれあい活動)の意図的計画的な展開により自己有用感の育成を図る。・人権教育を進め互いの違いを認め合う心の育成を図る。・道徳教育を学校の全教育活動を通して計画的・発展的に行う。子どもがねらいとする道徳的価値を自分との関わりの中で考えさせることにより、主体的に道徳の学習に取り組ませる。		
健やかな体	・心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身につけ、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てる。・運動の特性や児童の実態をつかみ指導計画をたて、授業力の向上を図っていく。・年間を通した長縄とびの取り組みや陸上やボールゲームの朝練習など、体力づくりに取り組む。	・年間を通した長縄とびの取り組みや陸上やボールゲームの朝練習など、体力づくりに取り組んでいる。・運動の特性や児童の実態をつかみ指導計画をたて、授業力の向上を図っていく。	A	健やかな体	・心と体の健康を守ることに関心をもち、望ましい生活習慣を身につけ、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てる。・運動の特性や児童の実態をつかみ指導計画をたて、授業力の向上を図っていく。・年間を通した長縄とびの取り組みや陸上やボールゲームの朝練習など、体力づくりに取り組む。	・年間を通した一校一実践活動(長縄とび)や陸上やボールゲームの朝練習など、体力づくりに取り組み、それが体力調査の好結果につながった。・運動の特性や児童の実態をつかみ指導計画をたて、授業力の向上を図っていく。	A	健やかな体	・心と体の健康に関心をもち、望ましい生活習慣を身につけ、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てる。・運動の特性や児童の実態をつかみ指導計画をたて、授業力の向上を図っていく。・年間を通した長縄とびの取り組みや陸上やボールゲームの朝練習など、体力づくりに取り組む。		
地域連携	・人とかかわる力を育てるために、地域の人材や保護者などのゲストティーチャーの力を借りながら授業の充実を図ったり、年齢も立場も違ういろいろな人との交流活動を行ったりする。異校種連携を深めるための交流活動などの取組を年間を通して進める。・ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めていく。	・40周年事業を通して、地域の人材や教材をつかみ、広げていくことができた。・地域連携のメリットを共通理解し、地域の教育力をより一層学校教育に生かしていく。・ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めてきた。	A	地域連携	・人とかかわる力を育てるために、地域の人材や保護者などのゲストティーチャーの力を借りながら授業の充実を図ったり、年齢も立場も違ういろいろな人との交流活動を行ったりする。異校種連携を深めるための交流活動などの取組を年間を通して進める。・ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めていく。	・地域の人材や教材をつかみ、広げていくことができた。・地域連携のメリットを共通理解し、地域の教育力をより一層学校教育に生かしていく。・ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めてきた。	B	地域連携	・地域の人材や保護者などのゲストティーチャーの力を借りながら授業の充実を図ったり、年齢も立場も違ういろいろな人との交流活動を行ったりする。異校種連携を深めるための交流活動などの取組を年間を通して進める。「まちと共に歩む学校づくり懇話会」を中心に新しい教育課程やこれからの教育について語り合い、「社会に開かれた教育課程」を実現していく。		
児童指導	・児童支援専任を中心とした児童指導体制の確立を図る。・計画的また必要時の予見指導・迅速適切な対応(報告・連絡・相談)・情報交換の時間確保・家庭環境の把握的・多面的児童理解・支援体制確立…関係機関、専門家との連携 → ケース会議の開催・スタートカリキュラムの実施…4・5月の指導体制	・児童支援専任を中心とした児童指導体制の確立を図ってきた。児童相談所等の関連機関の連携を進めることができた。・二小スタンダードを全教職員で共通理解し、指導の徹底を図っていく。	B	児童指導	・児童支援専任を中心とした児童指導体制の確立を図る。・計画的また必要時の予見指導・迅速適切な対応(報告・連絡・相談)・情報交換の時間確保・家庭環境の把握的・多面的児童理解・支援体制確立…関係機関、専門家との連携 → ケース会議の開催・スタートカリキュラムの実施…4・5月の指導体制	・児童支援専任を中心とした児童指導体制の確立を図ってきた。児童相談所等の関連機関の連携を進めることができた。・二小スタンダードを全教職員で共通理解し、指導の徹底を図っていく。	B	児童指導	・児童支援専任を中心とした児童指導体制の確立を図る。・計画的また必要時の予見指導・迅速適切な対応(報告・連絡・相談)・情報交換の時間確保・家庭環境の把握的・多面的児童理解・支援体制確立…関係機関、専門家との連携 → ケース会議の開催・スタートカリキュラムの実施…4・5月の指導体制		
特別支援教育	・全体支援会議において児童の情報の共有を図る。関係機関との連携強化を図り、チームで子どもを支援していく体制を確立していく。アシスタントティーチャーや学校ボランティアの有効活用を図る。ユニバーサルデザイン教育について研修を進める。・港南台ひの特別支援学校との連携を深めるための交流活動などの取組を年間を通して進める。	・全体支援会議において児童の情報の共有を図ってきた。関係機関との連携強化を図りチームで子どもを支援していく体制を確立していく。	B	特別支援教育	・全体支援会議において児童の情報の共有を図る。関係機関との連携強化を図り、チームで子どもを支援していく体制を確立していく。アシスタントティーチャーや学校ボランティアの有効活用を図る。ユニバーサルデザイン教育について研修を進める。・港南台ひの特別支援学校との連携を深めるための交流活動などの取組を年間を通して進める。	・全体支援会議において児童の情報の共有を図ってきた。関係機関との連携強化を図りチームで子どもを支援していく体制を確立していく。	B	特別支援教育	・全体支援会議において児童の情報の共有を図る。関係機関との連携強化を図り、チームで子どもを支援していく体制を確立していく。アシスタントティーチャーや学校ボランティアの有効活用を図る。ユニバーサルデザイン教育について研修を進める。・港南台ひの特別支援学校との連携を深めるための交流活動などの取組を年間を通して進める。		
危機管理	研修等を通して以下のリスクを回避するよう努力する。①児童の行動に関わるもの②登下校時の事故③教師の安全指導不十分なことに関わるもの④宿泊体験学習における事故安全配慮義務違反⑤食の安全⑥感染症⑦施設の瑕疵⑧災害時の対応⑨教職員の服務に関わるもの	「安全は全てに優先する」をモットーにリスクマネジメントの充実を図ってきた。報告・連絡・相談を迅速にするよう徹底してきた。また、事業を担任一人が抱え込まないよう組織で対応できるようにしてきた。	A	危機管理	研修等を通して以下のリスクを回避するよう努力する。①児童の行動に関わるもの②登下校時の事故③教師の安全指導不十分なことに関わるもの④宿泊体験学習における事故安全配慮義務違反⑤食の安全⑥感染症⑦施設の瑕疵⑧災害時の対応⑨教職員の服務に関わるもの	「安全は全てに優先する」をモットーにリスクマネジメントの充実を図ってきた。報告・連絡・相談を迅速にするよう徹底してきた。また、事業を担任一人が抱え込まないよう組織で対応できるようにしてきた。	A	危機管理	研修等を通して以下のリスクを回避するよう努力する。①児童の行動に関わるもの②登下校時の事故③教師の安全指導不十分なことに関わるもの④宿泊体験学習における事故安全配慮義務違反⑤食の安全⑥感染症⑦施設の瑕疵⑧災害時の対応⑨教職員の服務に関わるもの		
				いじめへの対応	・児童理解に努め、誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを進める。児童指導部を中心に校内児童支援体制の充実を図る。教職員がいじめの定義を正しく理解し、いじめについて適切に判断し対応できるよう研修する。保護者に寄り添い信頼関係を構築する。	・「だれもが安心して豊かに」生活できる学校を目指し、学級づくりを丁寧に行った。一人ひとりの自己有用感を高められるような授業や学級活動を心がけている。いじめ事案をキャッチした際は、迅速にチームで対応してきた。よりいっそうの研修の機会を設けていく。	B	いじめへの対応	・児童理解に努め、誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを進める。児童指導委員会を中心に校内児童支援体制の充実を図る。教職員がいじめの定義を正しく理解し、いじめについて適切に判断し対応できるよう研修する。保護者に寄り添い信頼関係を構築する。いじめ防止研修の充実を図る。		
人材育成・組織運営	・メンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって継続的に活動を行うことにより、教職員の専門性を向上させる。(自主的な運営)・学年研の充実(人材育成)を図るとともに、学年ノート等記録を次年度へ生かすようにする。	・ブロック研を定期的に開催し、学年の枠を超えた協力体制ができてきた。学年研やメンター研の充実を図っていく。・全教職員による協力指導体制を構築し、組織力・チーム力の向上に努める。	B	人材育成・組織運営	・メンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって継続的に活動を行うことにより、教職員の専門性を向上させる。(自主的な運営)・学年研の充実(人材育成)を図るとともに、学年ノート等記録を次年度へ生かすようにする。	・学年研やメンター研の充実を図ることができた。ブロック研を定期的に開催し、学年の枠を超えた協力体制ができてきた。・全教職員による協力指導体制を構築し、組織力・チーム力の向上に努める。	B	人材育成・組織運営	・メンターチームを組織し、ミドルリーダーが講師となって継続的に活動を行うことにより、教職員の専門性を向上させる。(自主的な運営)・学年研の充実(人材育成)を図るとともに、学年ノート等記録を次年度へ生かすようにする。		
ブロック内相互評価後の気付き	『ともに「まち」で生き、「まち」に学び、「まち」をつくる、港南台の子どもを育てる』という共通目標へ向け、港南台ひの特別支援学校を含めたブロック内で連携を図ってきた。・学習面、児童生徒指導面、地域連携面における5校の共通理解を進めている。		ブロック内相互評価後の気付き	『ともに「まち」で生き、「まち」に学び、「まち」をつくる、港南台の子どもを育てる』という共通目標へ向け、港南台ひの特別支援学校を含めたブロック内で連携を図ってきた。・学習面、児童生徒指導面、地域連携面における5校の共通理解を進めている。		ブロック内相互評価後の気付き					
学校関係者評価	『ともに「まち」で生き、「まち」に学び、「まち」をつくる、港南台の子どもを育てる』という共通目標へ向け、港南台ひの特別支援学校を含めたブロック内で連携を図ってきた。・学習面、児童生徒指導面、地域連携面における5校の共通理解を進めている。		学校関係者評価	・まちと共に歩む学校づくり懇話会の委員に学校評価を説明した上で意見をいただいている。安定した学校経営を高く評価いただいている。『ともに「まち」で生き、「まち」に学び、「まち」をつくる、港南台の子どもを育てる』という共通目標へ向け、港南台ひの特別支援学校を含めたブロック内で連携を図ってきた。・学習面、児童生徒指導面、地域連携面における5校の共通理解を進めている。		学校関係者評価					
学校経営中期取組目標振り返り	1年目の取り組みとしては概ね順調な進捗状況にあると判断する。経験の浅い教員が多く、次年度以降は、本校で経験を積んだ教員が次々と異動期を迎えるので、教育活動の充実には人材の育成と活用が不可欠な要素である。・新学習指導要領の方向を読み、教職員で共通理解した上で教育課程の編成にあたる。さらには、新学習指導要領を手がかりに学校教育目標や学校として育成を目指す資質・能力を明確にし、家庭や地域とも共有していく。		学校経営中期取組目標振り返り	2年目の取り組みとしては昨年度の反省を生かし概ね順調な進捗状況にある。「感動のある学校」地域連携推進「チーム二小の構築」をスローガンに学校運営を進め、前進が見られた。人材の育成と教育課程の編成をさらに進めていく必要がある。・新学習指導要領を手がかりに学校教育目標や学校として育成を目指す資質・能力を明確にし、家庭や地域とも共有していく。		学校経営中期取組目標振り返り					